

農林水産統計の広報・公表の改善の具体化について

改善の基本的考え

改善に向けた指摘

改善の具体化

広報における基本的コンセプト

これまでの政策的利用を中心とした公表・提供に加えて、国の統計結果であることを踏まえた「公共財」としての価値を高め、広く利活用されるよう、現行の公表・提供手法の改善、新たな提供手法の導入など行う。

- ① 対象の明確化
 - ・ 誰のため、何のための資料であるか、対象を明確化して、内容、媒体等について整理することが必要。
 - ・ 一定のペルソナ（公表の相手方として想定する人物像）を設定した上で、最も訴求力の高い手法を選択。
- ② ニーズの把握
 - ・ 相手のニーズを把握する手法として、
 - ア ホームページのアクセスログ解析、
 - イ 提供している資料に対する感想・意見等の把握・分析等による検討が必要。

- ① 広報・公表の相手側に見合った提供のあり方を踏まえ、第1報等の印刷物、ホームページ、データベース等各公表媒体ごとに所要の改善を加える。
- ② 新たな提供手法（メルマガ、コンパクト統計等）の導入により、利用者の拡大と利便性の向上を図る。
- ③ 統計データ等に関するユーザーからの感想・意見等を把握し、今後の見直しに反映させる。
- ④ 今後の課題として、ホームページ・データベース等へのアクセスログの解析を行い、利用者の操作性等の改善を検討。

ペーパーメディアによる統計データの提供

第1報（速報）

政策的利用を前提とした構成・記述から、マスコミ・関係団体等を通じて、より多くの各層へ情報としての伝達、利活用の推進を図る。

このため、第1報の構成、記述内容等についての改善を図る。

- ① 正確な情報の伝達
 - ・ 相手に伝えたいこと、注目してほしい事項をきちんと記述すべき。
 - ・ 読みやすさ、分かりやすさ、関心を持たせるような構成、記述が必要。
- ② 関連情報の提供
 - ・ プラスαの情報（関連データ等）を付加することで、ユーザーの幅広い関心に対応することも必要。（特にマスコミ関係者には背景事情も含めた情報提供が必要）

- ① 公表する内容について、分かりやすく、さらに要因や背景などの関連情報もセットにして提供するなどの改善を図り、行政、関係機関等直接的に第1報を利用するユーザーの理解度、利用度の向上を図るとともに間接的には新聞・TV等のマスコミへの露出度を高め、さらなる利用普及を図る。

- ② 具体的な改善については、資料1に整理。

月報、報告書等

ホームページ、データベース等電子メディアの普及により、記録資料としての性格が強くなるとともに、配付先についても固定化しており、ユーザーとの間でミスマッチが生じていることも想定される。

このため、電子メディアを活用した提供を図るとともに、真に必要なとする利用者の的確な把握を行う。

- ① 的確な配付
 - ・ 印刷物を必要としているユーザーにきちんと配付されるよう、ニーズの把握が必要。
- ② コンパクトな統計資料の作成
 - ・ 海外の例にあるような携帯に便利な小振りのポケット統計書の作成・提供も検討すべき。
- ③ 磁気媒体との融合
 - ・ 報告書については、印刷した冊子とともに、統計表を収録したCD-ROMを併せて提供すれば利便性は向上するのではないか。

- ① 農林水産統計月報
 - ・ ホームページへの掲載を行うとともに、印刷物としての配布に対するニーズを把握し、必要最小限の配付とする。
 - ・ 掲載するデータについては、ユーザーの要望等を把握して検討。
- ② コンパクト統計の作成・提供
 - ・ 農林水産統計月報の主要項目について手帳サイズにコンパクトにまとめた月別の統計表を作成し、ホームページに掲載。
- ③ ポケット農林水産統計
 - ・ 引き続き印刷物での配付とし、磁気データの利用は、統計データベースの検索機能等の改善・充実を図ることにより対応。
 - ・ 掲載するデータについては、ユーザーの要望等を把握して検討。
- ④ 報告書
 - ・ 記録資料としての印刷物の配付と、統計データベースへの蓄積による磁気データとしての利活用の推進を図る。

改善の基本的考え

改善に向けた指摘

改善の具体化

電子メディアによる統計データの提供

ホームページ

17年4月に、メニューの追加、インターフェースの改善等を行ったところであるが、ユーザーを意識したコンテンツの改善を図る。

- ① 関係機関等とのリンク
 - ・省内他局庁が公表した統計や、関係する民間企業等へのガイド
 - ・ホームページの各記述から統計データのページへのリンクを設定すべき。
- ② 適切な案内
 - ・各画面における「前画面への戻り」の案内など、ユーザーインターフェースやナビゲーションの改善
 - ・画面構成や画面の作りについて、ユーザーがとまどわないような設定が必要。
 - ・過去の公表資料に関する検索機能も充実する必要

- ① 積極的な広報として、農林水産統計メールマガジンの定期的発行。
- ② 災害時の写真等関連する画像情報を掲載。
- ③ 省内関係部局、省外関係機関等との間で相互リンクを推進。
- ④ ユーザーの意見・問い合わせ等に対応するため、統計のメールボックスを設置。
- ⑤ ユーザーからの意見等を踏まえ、ホームページの構成について使いやすさ、分かりやすさの観点からの改善。
- ⑥ 今後の課題として、ホームページへのアクセスログの解析により、利用実態を踏まえたメニューの最適化を検討。

農林水産統計情報総合データベース

ユーザーの利便性向上のため、検索機能の改善、加工・分析機能の追加等を図る。

- ① 検索機能の改善
 - ・分野別分類における区分については、素人でも分かるような工夫が必要。
- ② 統計表の改善
 - ・画面上で見やすいよう、統計表の表頭部分の改善などが必要。
- ③ 加工ツールの整備
 - ・利用者が選択したデータを、グラフで表すなどの機能を付けることはできないか。

加工・分析

統計結果の解説において前年比較が中心となっており、要因等の分析を強化する。

わがマチ・わがムラについて、データやグラフだけでは市町村の特徴がわからず、改善が必要。

グラフと絵で見る食料・農業について、構成が固定的であり、多様なニーズに応えるための改善が必要。

- ① 加工データの提供のあり方
 - ・「わがマチ・わがムラ」のデータを用いた市町村間の比較など、データの有効利用。
 - ・「グラフと絵で見る食料・農業」の対象の明確化及び関連データ等への誘導が必要。
- ② ユーザーの関心を引き起こす
 - ・調査結果をどう読み解くかといった解説や、読み物としての発信
 - ・統計数値と利用者を結ぶ「媒介項」（「東京ドーム何杯分」など）の活用を図るべき。
- ③ 分析体制の充実
 - ・研究機関等との協力体制を構築する必要

- ① 「わがマチ・わがムラ」
 - ・各市町村の特徴が分かる概要編を追加。
 - ・ユーザー自らがデータを加工できる機能を追加。
- ② 「グラフと絵で見る食料・農業」
 - ・食育用の「子ども編」と、解説を充実した「一般編」を作成。
 - ・各品目等に関連したページへのリンクを拡充。
- ③ 研究機関との定期的な協議・検討の場を設置。